

(3) 若い世代との交流の機会への参加意向は6割

60歳以上の高齢者の若い世代との交流の機会についてみると、なんらかの交流の機会がある者の割合（「よくある」、「たまにある」と回答した人の計）は平成20年で54.9%となっている（図1-2-5-11）。

また、若い世代との交流の機会への参加意向についてみると、参加したいと考える者の割合（「積極的に参加したい」、「できるかぎり参加

したい」と回答した人の計）は平成20年で62.4%となっており、初めて6割を超えた（図1-2-5-12）。

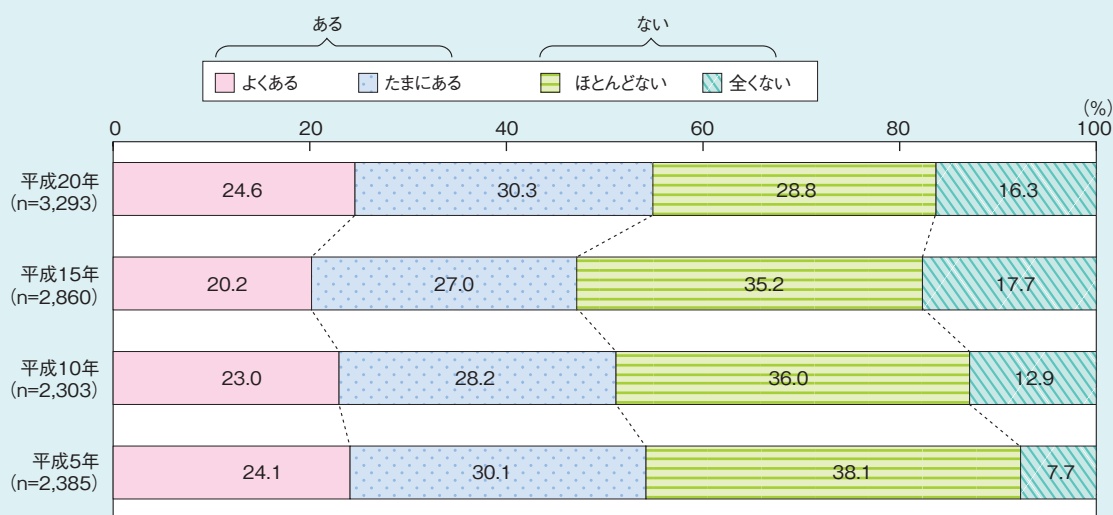
6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者は住宅と生活環境に概ね満足

ア 高齢者の9割は現在の住居に満足

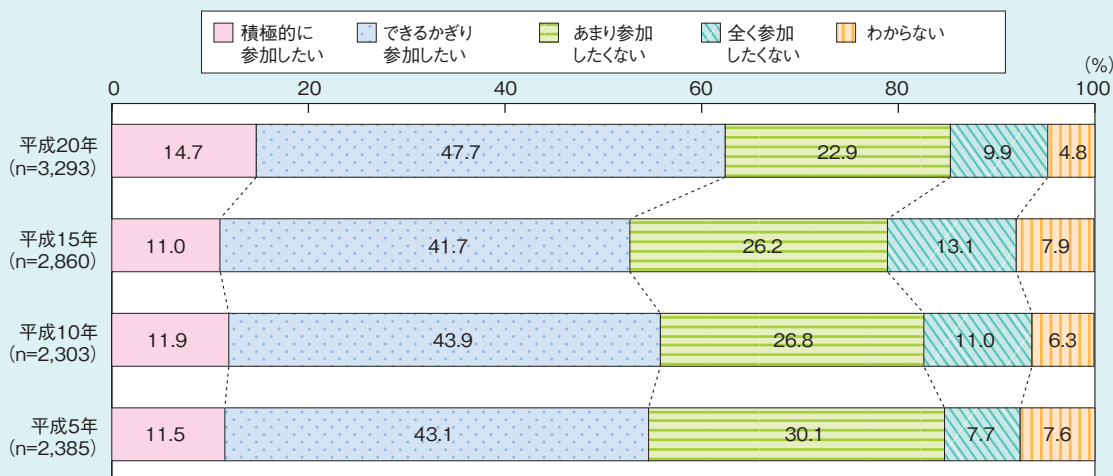
60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で89.3%、持家で91.2%、

図1-2-5-11 世代間交流の機会の有無



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-12 若い世代との交流の機会への参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

借家で69.9%となっている（図1-2-6-1）。

さらに、同調査で現在住んでいる住宅について不満な点を見ると、不満の理由は「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%、以下、「庭の手入れが大変」が10.5%、「住宅の構造や設備が使いにくい」が7.0%となっているが、「特に不満はない」は61.4%となっている。

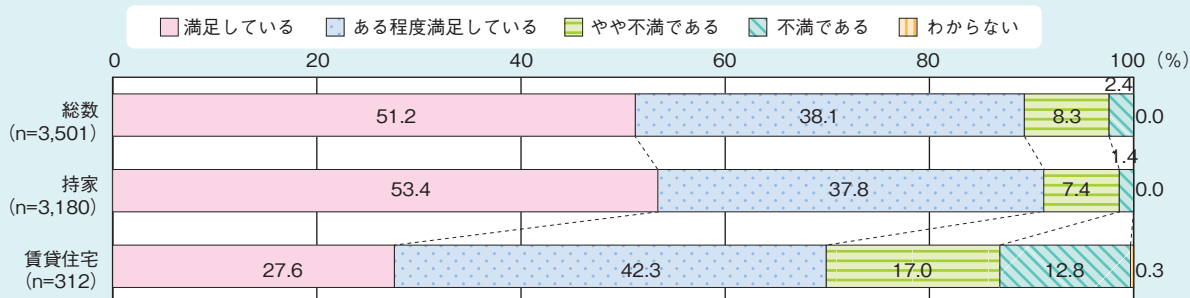
また、60歳以上の高齢者が、身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみると、「現在の住宅にそのまま住み続けたい」が37.9%、「現在の住宅を改造し住みやすくする」が24.9%、「介護を受けられる公的な施設に入居する」が

17.9%となっており、現在の住宅に住むことを希望している者が多い（図1-2-6-2）。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の行動は「歩いていた(階段の昇降を含む)」

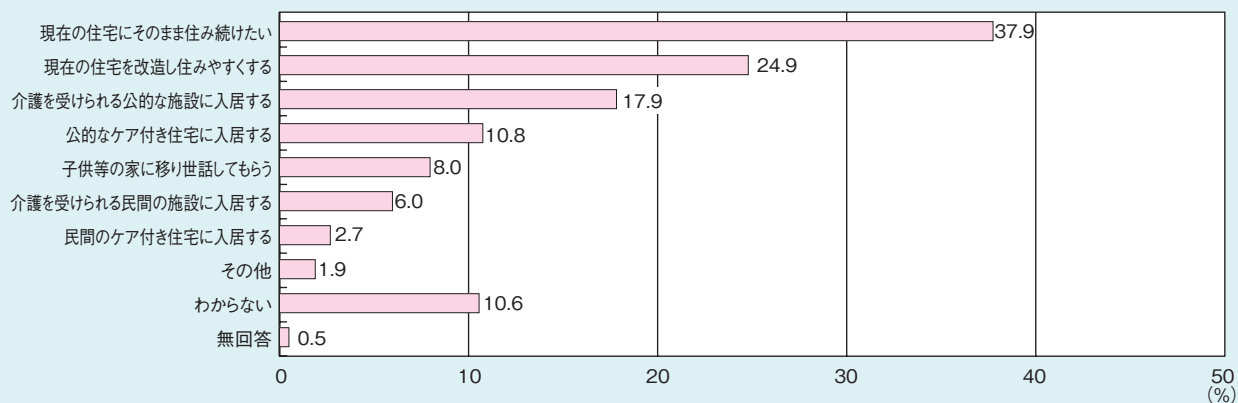
全国20の危害情報収集協力病院から提供された事故情報では、高齢になればなるほど住宅内での事故の割合が高く、事故時の場所別・行動別にみると、場所では、「居室」25.8%（1,072件）、「階段」13.1%（543件）、「台所」11.9%（495件）が多く、行動では、「歩いていた(階段の昇降を含む)」がもっとも多く29.0%と3割近くを占める（図1-2-6-3）。

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年）
 (注) 持家と借家の回答者数と総数の差 (n=9) は給与社宅等。

図1-2-6-2 虚弱化したときに望む居住形態（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成18年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

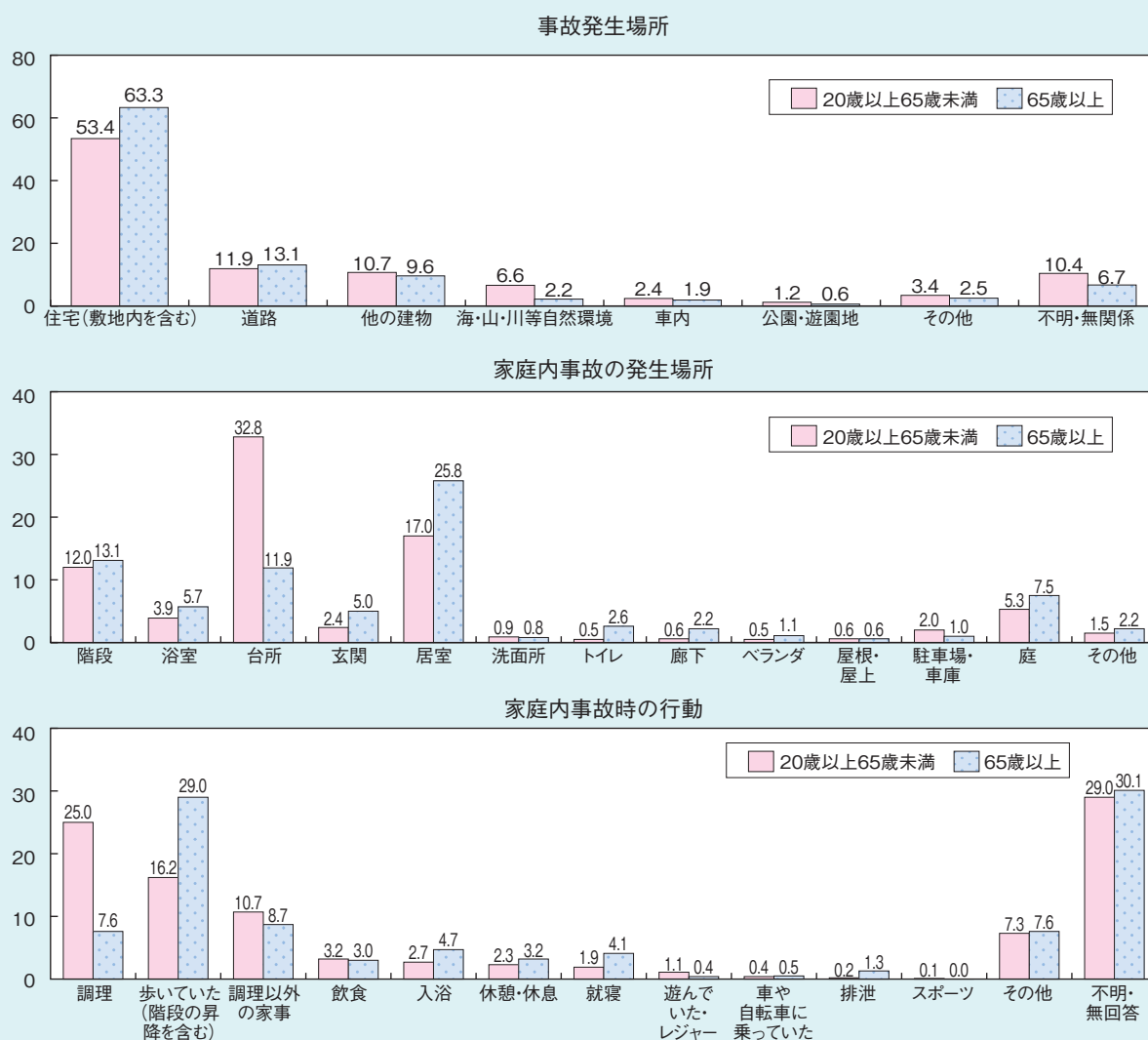
(2) 高齢者の安全・安心

ア 交通事故は増加傾向

65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成21(2009)年は2,452人で14(2002)年より減少しつつあるが、交通事故死者数全体に占める割合は年々増加しつつあり、21(2009)年は49.9%と統計が残る昭和42(1967)年以降で最高となっている。ただし、高齢化の影響による高齢者人口の増加によるものが大きく、65歳以上人口に対する交通事故死者数の割合は、8(1996)年以降減少し続けている(図1-2-6-4)。

一方で、高齢運転者による交通事故件数についてみると、年々増え続けている。65歳以上の高齢運転者(原付以上)による交通事故件数は、平成21(2009)年は104,870件と、20(2008)年に比べ2.7%増加した。しかし、高齢化の影響による高齢者人口の増加によるものが大きく、高齢者の運転免許保有者に占める高齢者の事故件数の割合は、16(2004)年をピークに減少傾向にある(図1-2-6-5)。

図1-2-6-3 高齢者の家庭内事故



資料：国民生活センター「病院危害情報からみた高齢者の家庭内事故」(平成20年)
 ※家庭内事故の発生場所については、不明・無回答を除く。